



pixta.jp - 7862297

自転車と挨拶

の乗り方

一人としての基本を大切にー



基礎がしっかりしていないために崩れやすい物事のたとえを、「砂上の楼閣」などと言います。英訳すると、a house of ()、または a castle in the () となるのでしょうか。空欄は考えてください。建築で、高く立派な建物であればある程、大切なのは、人に見える地上の外見・デザインではなく、その基礎工事です。何事においても、基礎・基本が大切です。言われると当然と誰もが首肯することですが、日常生活の中では、つい忘れたり疎かになってしまう事実でもあります。

基礎・基本 (Fundamentals)。勉強一般なら読み書き計算、英語なら単語や基礎英文法など、スポーツなら基礎体力や基本フォームでしょうか。受験勉強は、実は1, 2年生の基本学習が大事、と『3年生からのアドバイス集』に3年生の実感としてたくさん書かれています。では、「人としての基本」とは何でしょうか。学力？ そう答える人は多くないと思います。やはり、「人として」と言うと、誠実さ・礼儀正しさ・思いやり・・・等が浮かんできます。

さて本題。人としての基本という観点から、自転車の乗り方と挨拶について呼びかけます。

まず自転車。一部とは言

ながら、この頃鴻陵生への外部からの苦情が続いています。

担任の先生から聞いている通り自転車の接触トラブルです。

そして、何かあった後の生徒

の態度です。一例をあげれば、歩道で自転車に乗って一般の方とぶつかる。その後、黙って行ってしまう(逃げてしまう)。あるいは、ひどい場合「気をつけろ」などと毒づく。そんな残念な苦情が何件か寄せられています。1件は私が直接受け、立腹していたその方に「生徒を必ず指導します」と約束しました。HRで皆さんにすでに注意・改善が呼びかけられているはずですが、約束した私からも改めて呼びかけます。歩行者と自転車が歩道を共有しなければならない、そういう日本の狭い道路事情から考えれば、お互いが譲り合う思いやりの気持ちがなければ、事故とトラブルが続発するのは必然です。また、不幸にしてぶつかってしまったら、謝ったり相手の様子を気遣ったりすることは、当然のことです。思いやり・相手への気遣い。これは、人としての基本のひとつです。



次に挨拶。私は他の先生方とともに正門に立ち、毎朝大体100回くらいは生徒に「おはよう」と声をかけて一日が始まります。全体として見た時、鴻陵生はよく挨拶ができと思っています。気持ちの良い朝です。しかし、挨拶できない生徒もいます。耳にイヤホンを入れたままの、礼を欠く生徒もいます。残念ながら、こちらから声をかけられてなお知らんぷりの生徒も少数ながらいいます。聞こえないのか、主義なのか、朝からやや悲しい思いをする瞬間です。挨拶は、もともと「挨」も「拶」も禅の修行僧が相手に問答をしかけるところから生まれた言葉です。先に言葉をかける方が力量が高い(心が大きい)とされました。皆さんは、先に挨拶をしようと心掛けていますか。されたらする程度に考えている人はいませんか。されたらすると考える人がすれ違えば、結局挨拶は生まれにくいですね。

禅問答はともかく、挨拶は相手とコミュニケーションをとる際の基本です。挨拶は、それがすべてではないけれど、人と人がつながる最も大切な入口にあるものです。朝の挨拶、さよならの挨拶、ありがたい感謝の言葉・・・挨拶や礼儀は、理屈抜きに人としての基本だと思っています。

頭がよい、勉強ができることというのは、例えば、立派な建物です。人としての基本のない者が、上にある頭だけが肥大化すれば、それは当然砂上の楼閣でしかありません。立派な建物(高い学力)は、基礎(人としての基本)があってこそしっかりしたものになるはず。やがてリーダーになっていく、なって欲しい君たちには、是非そうあって欲しいと願っています。

「実るほど首を垂れる()かな」ということわざがあります(空欄は自分で)。思いやりや礼儀正しさ・正義感など、人としての基本がしっかり備わった優秀な人物こそ、本校が育てたい人間像です。

自転車の乗り方も挨拶も鴻陵生の中では少数の例です。心当たりの人は直しましょう。そして、改めてみんな、人としての基本の大切さを確認し直したいと思います。



